加

四年

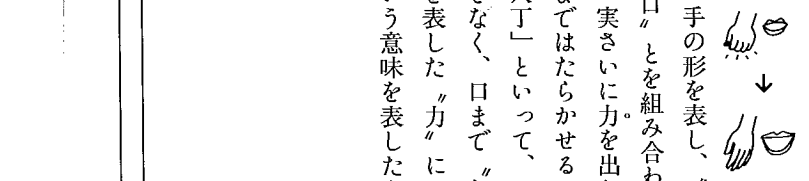
画数 5

筆順 カ カ 加

オン カ

クン くわ＝える＝わる

成り立ち



手の形を表し、〝ちから〟という意味を表した〝力〟と、〝口〟とを組み合わせて作った字です。

実さいに力を出してはたらくだけでなく、その上に口まではたらかせることを表した字です。「口も八丁、手も八丁」といって、口も手もよくはたらく人は、手ばかりでなく、口まで〝加えて〟はたらかせますので、手の形を表した〝力〟に〝口〟という字を加えて〝加える〟という意味を表したものです。

使い方

▽お汁粉は、砂糖のほかに、ちょっと塩を加えると、よけい甘みが出ます。

▽町内会主催の運動会に参加しました。今年は参加する人が昨年より増加したので、いっそう楽しくなりました。

熟語例

▽参加（なかまに加わること。「マラソン大会に参加して、ゴールまで走り切った」などというふうに、使います。）

▽増加（ふえること。「おかあさんは、体重が増加したので、せっせと美容体操をしています」などというふうに、使います。）

▽追加（あとから、つけ加えること。「レストランに入って、食事をしました。ぼくは、バナナパフェが食べたくなったので、追加注文しました」などというふうに、使います。）

▽加筆（筆を加えること。文章や絵に、筆を加えて直すこと。「この、ミケランジェロの絵には、後代の人の加筆があるといわれている」などと、使います。）

果

四年

画数 8

筆順 日 旦 甲 果

オン カ

クン は＝たす＝て＝てる

成り立ち

木の上に〝くだもの〟がなっていることを表した字です。

〝くだもの〟という意味を表した字です。例果実、果樹。

種がめを出し、木になり、花をさかせ、さいごに〝くだもの〟になります。種が始まりで、〝くだもの〟が終わりなので、〝果〟は〝果て〟というようにも使われます。

例遠い国の果て。

〝結果〟は〝結実〟と同じ意味のことばで、「実を結ぶ」→「実がなる」という意味のことばですが、今は、「事の果て」の意味に使われています。

使い方

▽王様は、王子に、この世の果てまで行って、そこに生えている金のりんごを取って来るように命令しました。王子は、さまざまな苦心のすえ、黄金の果実をみごとに手に入れて、使命を果たしました。

▽全力をつくした結果、失敗しても、がっかりすることはありません。力いっぱいやったかどうかが問題なのです。いいかげんな気持ちでやったら、たとえ成功しても喜びは少ないでしょう。一度失敗したら、またやってみればいいのです。きっと、良い結果を、得ることができるでしょう。

熟語例

▽果実（くだもの）

▽果樹（くだものがなる木）

▽結果（あることの果て。あることから生まれる状態）

▽因果（原因と結果。また、とくに、仏教の考え方で、前世におかした罪の結果、この世で不幸な目に会うことを言います。「何の因果で、こんなに悲しい思いをするのだろう」などというふうに、使います。）